

夕立

永井荷風

青空文庫

白魚しらうお、都鳥、火事、喧嘩、さては富士筑波つくばの眺めとともに夕立もまた東都名物の一つひとなり。

浮世絵に夕立を描けるもの甚多はなはだし。いづれも市井しせいの特色を描えがき出して興趣津々しんくたるが中に鍬形蕙斎くわがたけいさいが祭礼の図に、若衆わかいしゆ大勢たいぜい夕立にあいて花車だしを路頭に捨て見物の男女もろともに狼狽疾走するさまを描きたるもの、余の見し驟雨の図中その冠たるものなり。これに亜つぐものは国芳くによしが御厩川岸雨中おんまやがしの景なるべし。

狂言稗史はいしの作者しばしば男女奇縁を結ぶの仲立に夕立を降らしむ。きよもととしようり清元浄瑠璃の文句にまた一しきり降る雨に仲を結ぶの神かみな

鳴りや互にいだき大川の深き契ぞかわしけるとは、その名も夕立と皆人の知るところ。常磐津浄瑠璃ときわづに二代目治助が作とやら鉢の木を夕立の雨やどりにもじりたるものありと知れど未いまだその曲をきく折なきを憾うらみとせり。

一 歳ひととせ浅草代地河岸だいちがしに仮住居かりずまいせし頃の事なり。築地より電車

に乗り茅場町かやばちようへ来かかる折から赫々たる炎天俄にかきくもるよ

と見る間もなく夕立襲い来りぬ。人形町にんぎようちようを過ぎやがて両国

にきた来れば大川の面は望湖楼下おもてぼうこうかにあらねど水天の如し。いつもの

日ひよりげた和下駄覆きしかど傘持たねば歩みて柳橋やなぎばし渡行わたりゆかんすべも

なきまま電車の中に腰をかけての雨宿り。浅草橋も後あとになし須すだち

田町ように来掛る程に雷光凄すさまじく街上に閃きて雷鳴止まず雨には風

くわわ
も加りて乾坤けんこんいよいよ暗澹たりしが九段を上り半蔵門に至るに
及んで空初めて晴る。虹中天に懸り宮溝きゆうこうの垂楊油すいようよりも碧
し。住み憂き土地にはあれどわれ時折東京をよしと思ふは偶然か
かる佳景に接する事あるがためなり。

パリ
巴里にては夏のさかりに夕立なし。晩春五月の頃麗都の兒女豪
奢を競つてロンシャンの賽馬さいばに赴く時、驟雨そう濺そそぎ来つて紅圀粉
陣更に一段の雑沓を来すさま、巧にゾラが小説ナナの篇中に写し
出されたりと記憶す。

ニューヨーク
紐育にては稀に夕立ふることあり。盛夏のいつせき一夕われハド
ソン河上の緑蔭を歩みし時驟雨を渡頭ととうの船に避けしことあり。

かんど
漢土には白雨を詠じたる詩にして人口に膾炙するもの東坡とうばが望

湖楼醉書を始め唐韓とうかんあくが夏夜雨かやのあめ、清呉錫麒しんごしやくきが澄懷園消ちようかいゑんしよ
 夏襟詩うかざつしなぞその類尠るおくなからず。彼我風土の光景互に相似たるを
 知るに足る。

わが断腸亭奴僕次第ぬぼくに去り園丁来る事また稀なれば、庭樹徒いたずらに
 繁茂して軒を蔽い苔は階きざはしを埋め草は墻かきを没す。年々鳥雀ちようじやく昆虫
 の多くなり行くこと気味わるきばかりなり。夕立おそい来きたる時窓
 によって眺むれば、日頃は人をも恐れぬ小禽ことりの樹間に迷惑うごちうさま
 いと興あり。巢立して間もなき子雀蝉とともに家の中に迷入るこ
 と珍らしからず。是れ無聊を慰むる一快事たり。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆18 夏」作品社

1984（昭和59）年4月25日第1刷発行

1999（平成11）年11月20日第20刷発行

底本の親本：「荷風全集 第一四卷」岩波書店

1963（昭和38）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夕立

永井荷風

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>